

あの人はアスペルガー!?

成人期の発達障害

Vol. 27
Medical life advice

たばたメンタルクリニック
院長 田畑 修

最近、発達障害がいろいろな意味でクローズアップされています。特に大人が職場で「空気が読めない」「一言多い」「仕事ができない」「約束を守れない」「片づけられない」など。こうしたトラブルの背景に、発達障害がある可能性も否定できません。

発達障害にはADHD（注意欠如多動障害）、ASD（自閉症スペクトラム障害）、学習障害、知的障害、発達性協調運動障害があります。発達障害の多くは小児期に表面化して支援、サポートが始まります。ところが何とか不適応が顕在化しないまま社会に出てから大きなトラブルに直面。本人にとっては「生きづらさ」として、周囲にとっては「厄介な人」として表面化する場合にとりわけADHD、ASDがあるとされています。

ADHDは注意散漫になりやすく、落ち着きがなく、集中力がない、自分の感情をコントロールできない、衝動的で計画性がない、などの特徴があります。ASDは相手の感情が理解できないために対人関係がうまくいかない、会話やコミュニケーション能力が乏しい、興味や関心の対象が限定的で、しかもこだわりが強い、音に過敏などの特徴があります（これらは全て顕著で極端な場合です）。

このような特性、特徴のためにしばしば会社、職場において疎外されるような状況に陥ります。更にうつ状態やパニックなどの精神症状を発症して仕事を続けられなくなり、メンタルクリニック受診に至るケースがあります。そこで、医療側だけでなく周囲の人にも、発達障害的な「彼」、「彼女」にできることを思案していただき、「適役」、「適所」を職場や地域で見出してもらえないか？ と考えます。ADHD的な人には「発想力」「意外性」「ハプニング性」などを発揮する特性が、またASD的な人には「コツコツやり続ける」「苦勞をも厭わない」タフな特性があります。見方を変え、欠点ではなくストレングス（利点、強味）として生かすことで「彼」、「彼女」らの「居場所」が増えるのではないのでしょうか。

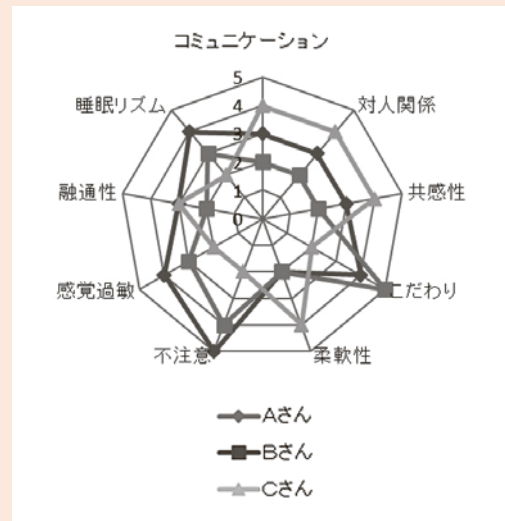
複雑に多様化、細分化している世の中と言われて久しい昨今。「彼」、「彼女」らを生かせる、リカバリー（回復）できる方策があると信じたいと思います。（図表には発達特性の凸凹、バラツキを示しました。全ての特性で完璧な人はそういないと思います。）

※従来のアスペルガー症候群はASD概念に含まれます。

※スペクトラム(spectrum)の意味は「虹」のような連続性を指します。自閉症の程度はスペクトラム様であり単純に区切り、区別は難しいということです。

※ADHDとASDは現在では合併(併存)が認められています。

	Aさん	Bさん	Cさん	筆者
コミュニケーション	3	2	4	4
対人関係	3	2	4	4
共感性	3	2	4	3
こだわり	4	5	2	4
柔軟性	2	2	4	3
不注意	5	4	2	4
感覚過敏	4	3	2	3
融通性	3	2	3	4
睡眠リズム	4	3	2	2



田畑 修
たばたメンタルクリニック
〒890-0056 鹿児島市下荒田3-17-32
TEL:099-250-5682 FAX:099-251-1521
hp:tabata-mc@po3.synapse.ne.jp